

幕末の四賢侯

まつだいらしゅんがく
松平春嶽と
やまうちようどう

山内容堂の関係

将軍・徳川慶喜に大政奉還を建
白したことで知られる山内容
堂は、文政10（1827）年に、土

佐藩主山内家の分家の長男として
生まれました。第13、14代藩主が
相次ぎ急死したことから、嘉永元
（1848）年に第15代藩主となり
ます。容堂が心を許し信頼した人物、
それが松平春嶽でした。春嶽と容堂
は、お互いに切磋琢磨し、何でも言
い合える仲で、春嶽は、容堂の率直
さを、容堂は、春嶽の誠実さを認め、
信頼し合っていたといえます。

安政4（1857）年10月、二人
は福井藩江戸上屋敷で開催された大
学講会において初めて出会います。
後日、第二回の会合が開かれ、容堂



山内容堂肖像
(福井市立郷土歴史博物館蔵)

について福井藩士、橋本左内はこう
記しています。議論は鋭く、いず
れの人も圧倒された様子。公は、計
らずも自分をよく理解してくる友
を得たと大いに喜ばれた。春嶽は、
これ以後、容堂を同志として信頼し、
將軍継嗣問題で慶喜擁立に奔走し
ていきました。

文久2（1862）年7月、春嶽
は政事総裁職に就任します。容堂

は、幕政の中核に進出した春嶽に対
して、容易ではない、大がかりな
仕事には、ゆつたりと構えなければ
なりません。常に心には「閑」の文
字を持ち続けることが大切と進言。
春嶽の性格をよく知る容堂は、重責
を担う春嶽に対して余裕の心構えを
持つ大切さを説いたのです。春嶽の
性格は、謹直・誠実・几帳面で、一
方、容堂は情熱のまま率直に行動す
る性格でしたが、これがかえって調
和し、終世変わらぬ盟友となったよ
うです。

慶応3（1867）年10月に大政
奉還、12月に王政復古の大号令が発
せられた後に開催された「小御所会
議」において二人が支え合うエピ
ソードが残っています。徳川家の処
分が問題となり、慶喜の辞官・納地
を求める岩倉具視らと春嶽、容堂ら
が対立しました。容堂は、今まで功
績のある慶喜を出席させないことを
非難して「3、4の公家が幼い天皇
をもちたてて、権力を盗もうとして
いるだけだ」といきり立って大声で
叫びました。これに対して岩倉具視
は「無礼千万ですぞ」と一喝。春嶽
は「しっかり公議をつくすためにも
容堂殿の意見を取り入れて慶喜をこ
の席に召されたい」と容堂に助け船
を出したといわれています。

容堂が残した言葉、一橋の英明、
春嶽の誠実、それに我が果断を加わ
えて、天下の事を決すべし。これ
はまさに、春嶽を信頼し、国政に関
わった容堂の道標となっていたのか
もしれません。

関連史料・ゆかりの地

まつだいらしゅんがく
松平春嶽と山内容堂が出会った
福井藩江戸上屋敷



松平春嶽と山内容堂が出会った
福井藩江戸上屋敷は、現在の東京
千代田区大手町にありました。現在
は周辺に案内板や銅像などがあり
当時の面影をしのばせています。ま
た、江戸東京博物館には、江戸時
代の初期の上屋敷の模型が展示さ
れています。模型を見れば、当時福
井藩がいかに勢威を誇っていたか
がわかります。

※画像は福井県が製作した再現CG